



令和二年度から 三年度にかけて



令和二年は、正月明けから誰にも想像の出来なかった新型コロナウイルスが流行し、世界中に蔓延させました。日本では、クルーズ船から始まり日を追うごとに国内に広まる感染者の数字に恐怖を覚えました。

夕鶴の里資料館報

令和3年3月10日

第 123号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

夕鶴の里も四月、五月と休館を余儀なくされました。その後再開、夕鶴の里においてのお客様の全てに、体温測定、消毒をして頂き、機織り体験ではスリッパを履いて体験していただき、民話の語りの際はソーシャルディスタンスを取りながらお聴きいただくという、従来とは違う形での対応となりました。その都度消毒したりとコロナウイルス対応の基準に従っての開館を強いられる職員の方達のご苦労をひしひしと感じております。

せな事だと思えます。これからの夕鶴の里におきましては、ワクチン接種が始まってきましたので、少しずつでも以前の生活に戻れたらと思えますが、夕鶴の里の見る(資料館)・聞く(民話)・体験する(機織り・そば打ち)の三本柱も新しい生活に合わせていかなければならないと思えます。

見る」は、従来の資料館展示にプラスして、楽しんでもらえる展示。一昨年より三階での展示にテーマを設けて企画展を行っており、現在は市内の三名の方から作成して頂いた、大正時代の型紙から復元した「せみぶくろ 蝉袋」とひな飾りの展示を行っております。

聞く」は、三密を避けることが大きなネックになります。語り部の皆様にはご負担をおかけ致しますが、民話の回数を増やし、少人数でのお客様により回転を考えていくべきかと思えます。

体験する」は、機織りは一方方向を向いて織りますので、指導員のマスク着用・換気・加湿器設置・機織り道具の消毒などに気を付け、スリッパを履くことを基本とします。

そば打ち体験については、人数制限、会食が出来ない状態なので、規制が緩和されてからの予約受付を再開したいと考えております。これからは誰もがコロナウイルスに負けることなく、安心・安全な夕鶴の里により多くのお客様を迎えることができるようにと願っております。

夕鶴の里運営協議会
会長 川合ひさ子



【体験する】
機織り体験



【見る】
資料館
「金蔵の家」



【聞く】
民話

企画展

夕鶴のひな飾り展

好評開催中!

二月二日(火)から開催しております、夕鶴のひな飾り展が大変好評で、初日から地元の方を始め、市外からも来場いただいております。

新聞、テレビ、情報誌、南陽市報などに取り上げて頂き、興味を持って見にいらっしゃるお客様が増えており、開催から一カ月の間に一〇〇名を超えている状況です。

今、各所でお雛様の展示やひな飾り展を開催しているようですが、春を感じ、このコロナ禍の時に、とても心が和み、気持ちも温かくなります。

五月九日(日)まで開催しておりますので、是非、夕鶴の里のひな飾り展を見ながら、語りも聴にごさつとごえくへお客様の感想

*新聞を見て、ひな飾り展を見に来たけど、感動して見させてもらいました。

*私も小物とか、浴衣を縫っているが、興味深く見さ

せて頂きました。蟬の型紙があつたら、是非作ってみたい。

*うさぎの人形が目を引いた。表情がすごいのと、アクセサリーを何個もつけているのも素敵だった。

*ひな飾り展に興味があつたので、山新を見てきました。すごく良かった。来て良かったです。

*高畠、結城記念館、夕鶴とひな飾り展を見たくて、三か所はしごをして来ました。

三名の製作者の方、皆さん手性が良くてすごく上手です。もう、感激して見させてもらいました。友達にも教えませう。

是非、来年も開催してください。



展示の見どころ

大正時代の型紙からセミのちりめん細工「蟬袋」を復元しました。また、学校法人九里学園様のご厚意でお借りした明治時代の九里裁縫女学校の女学生が製作したちりめん細工にも「蟬袋」がありました。セミのちりめん細工を通して明治・大正そして現代へ続く歴史を感じていただけたいと思います。

セミは「泣く子は育つ」という意味と土中に長くいることから辛抱強い人になつて欲しいという願いが込められています。

この他のちりめん細工一つ一つにも子供の健やかな成長や幸せを願う気持ちが入められています。現代まで受け継がれているということは、子を想う親の気持ちや現代でも変わらないことの証しであると思います。春を探しに是非、お越しください。



復元した蟬袋



大正時代の型紙



明治時代の蟬袋